

2 かきのへい死対策

国への提案事項

1 へい死メカニズムの解明

- 近年、養殖かきのへい死被害が深刻化しており、県では有識者会議を開催するなど原因究明を進めているが、へい死の被害は瀬戸内海をはじめ広域に発生していることから、国においても引き続き、関係府県とも緊密に連携を図りながら、徹底した原因究明に基づくへい死メカニズムの解明を迅速かつ強力に進めること。

2 へい死の防止に向けた実証事業への財政支援

- 実効性のある対策を迅速に明らかにするためには、原因究明と並行して、対策の仮説を設定し、研究機関のみならず、生産者自らも仮説の検証に取り組み、より多くの検証結果から最善の策を導き出すことが有効であることから、施策の推進に必要な予算を確保すること。

3 実証事業の成果を海域全体に普及させていくための財政支援

- 環境変化に対応した持続可能なかき養殖が行われ、将来にわたって国内外に安定供給されるよう、実証事業で得られた効果的なへい死防止対策を幅広い生産者に普及させていくため、支援メニューの補助上限額を引き上げるなど拡充を図ること。

4 へい死にともなって増加するかき殻の活用への財政支援

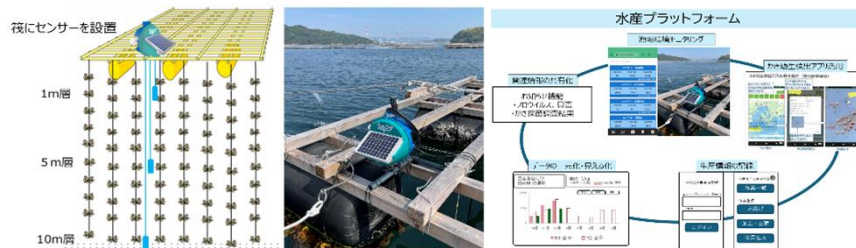
- 「高水温等によるカキへい死被害への政策パッケージ」に基づき、全国各地でかき殻を用いた増殖場造成や漁場底質改善が取り組まれるよう、支援メニューを新設するほか、農林水産省以外の省庁においても活用が図られるよう取り組むこと。

【提案先省庁：農林水産省、水産庁】

現状／広島県の取組

- 養殖工程やへい死した時期などのヒアリング調査を実施するとともに、漁場環境データの解析や国内外の知見を収集しながら、専門家による有識者会議を中心に、様々な視点からの原因究明を進めている。
- 原因究明と並行して、へい死リスクの高い水深を回避する養殖操作や、かき殻散布による貧酸素の発生抑制など、生産者自らが課題解決に取り組む現場実証を支援していく。また、未然にリスクを察知するための対策として、漁場環境データ等を自動集積し、生産者が活用できるシステム(水産プラットフォーム)を構築しており、新たに塩分や酸素濃度を追加したモニタリング強化や、へい死リスクの情報発信などの取組を進めていく。
- かき殻の利活用を進めるため、製造業者や商社等とかき殻加工業者とのマッチングや、かき殻を活用した製品の開発や製品の利用拡大に係る取組の支援を行うほか、餌料生物の増殖効果や底質改善効果、漁場造成及び底質改善の施工方法、効果把握方法などをとりまとめた「かき殻を活用した漁場環境改善ガイドライン」を令和8年2月に公表している。

【水産プラットフォームを活用したスマートかき養殖の推進】



課題

- 翌シーズンに向けた養殖準備に間に合うよう、県では5月末までに暫定的な対策案をとりまとめ、生産者に提示しながら対策に取り組んでいるが、徹底した原因究明には、引き続き、瀬戸内海単位での国の強力な推進体制が不可欠である。
- 原因究明と並行して対策を見出していくには、仮説を生産者自らが複数漁場で現場実証し、その効果を持ち寄り検証した上で、より有効な対策を検証していくことが効果的であり、生産者の取組を後押しする財政的支援が必要である。
- また、実証事業の成果を海域全体に普及させていくためには、経営難にある生産者であっても、有効な対策に踏み切れるよう、初期投資への財政的支援が必要である。
- かき殻発生量の増加と従来の需要の減少が相まって、かき殻の需給バランスが崩れている中、令和7年度に発生したかき大量へい死が拍車をかけており、県内の漁場利用だけでは堆積場のひっ迫を解消する規模でのかき殻活用にはつながらない。

【かき殻を活用した漁場環境改善ガイドライン】

3. かき殻の性状について

3-1 性状

かきは二枚貝であり、一般に殻部は閉鎖面であるが、形骸は付着した場所によって著しく異なる。一定しない。かき殻は左右非対称で、左殻は閉らみが強く、基質物に閉着する。右殻は平たく、蓋のようになっている。殻部には強い吸着力のたがっている。蓋を開いた場合は、半殻状の突起になる。殻表外縁は黒い・黄白色で、帯褐色の放射状の帯がある。かき殻内面は白色である。



3-2 構造

かき殻は、外側から殻表、殻質層（硬組織）、殻状層またはチャーク層

